

大須賀るえ子さん

町無形民俗文化財「伝統文化継承者」に認定

3月9日から元陣屋資料館で企画展開催

大須賀さん(83)は、祖先の言葉のアイヌ語に興味を抱き、アイヌ語教室に通います。その中で言語を学ぶことでアイヌの文化や習慣、考え方に触れました。平成10(1998)年、「白老楽しく・やさしいアイヌ語教室」を立ち上げ、「金成マツ筆録ノート文字解説字典」や「アイヌ語白老方言辞典」などを発行。また、マツがローマ字筆記体で残した膨大なユカラ(英雄叙事詩)やウエペケレ(昔話)の翻訳作業を通し、伝承・保存、研究に尽力。令和6年1月に「言語～白老地方のアイヌ語方言の伝承と研究」で認定されました。

認定



情報ノート

企画展 白老町伝統文化継承者展3 「白老アイヌ語伝承者 大須賀るえ子」

大須賀さんのアイヌ語にかける熱い眼差しを感じることができる原稿資料など約80点を展示します。開幕日には大須賀さんによる展示解説会も行います。現代につながれたアイヌ語をこの機会にご覧ください。

期間 3月9日(土)～31日(日) ※展示解説は9日(土) 10時30分～12時

会場 元陣屋資料館会議室 協力 白老楽しく・やさしいアイヌ語教室

資料提供 道立文学館ほか 詳細 元陣屋資料館 ☎85-2666

鈴木知事、ウポポイ訪問 鈴木直道知事が2月3日、ウポポイ(民族共生象徴空間)を訪問。映画「ゴールデンカムイ」の特別展(2月4日～11日)を視察し、映画で使われた衣装や小道具などを展示した同展や、野外でトナカイのそりに乗ったりして冬のイベントをPRしました。



既に映画を鑑賞し、ロケの舞台になった北海道開拓の村(札幌市厚別区)で出演者・監督とも会っている鈴木知事は、展示された小道具に「ああ、これです!」と興味津々に鑑賞。「映画やウポポイを通してアイヌ文化に触れていただけたらうれしい」と話していました。

既に映画を鑑賞し、ロケの舞台になった北海道開拓の村(札幌市厚別区)で出演者・監督とも会っている鈴木知事は、展示された小道具に「ああ、これです!」と興味津々に鑑賞。「映画やウポポイを通してアイヌ文化に触れていただけたらうれしい」と話していました。



知っておこう アイヌ文化

イオマンテ(後編)

イランカラプテ。イオマンテの準備は、まず男性がカムイへの捧げ物であるイナウ(木幣)やヘペレイ(花矢)など、祭具の材料調達と制作、女性が儀式に欠かせないトフト(酒)や数々の料理など、供物の仕込みを行います。準備が整い、前夜祭の後、アペフチカムイ(火の神)へ祈り、ヌササン(祭壇)にイナウを立てる作業が厳粛に執り行われ、カムイ(神)への数々のお土産が飾られます。そして、両方から綱で引っ張りながら檻から仔グマを出して遊ばせ、ヘペレイが射られた後、イヌンパニと呼ばれる丸太で仔グマの首を挟んで絞め、肉体と魂の分離が行われます。その後、解体によって頭部と毛皮だけの姿となり、ロルンプヤラと呼ばれる神窓から家の中に招き入れられます。たくさんの供物と共にカムイノミ(神への祈り)やユカラ(英雄叙事詩)、歌、踊りなどの楽しい祝宴も催され、頭部の解体と飾り付けが終わると、ユクサパオニという二又の木に仔グマの頭骨を納め、ヌササンに立てることで、親グマの待つカムイモシリ(神の世界)へと旅立ち、人間からのお土産を他のカムイに振る舞いながら、アイヌモシリ(人間の世界)で最高のもてなしを受け、いかに素晴らしい場所であったかを語り広めると言います。



カムイへの贈り物であるイナウは、人間の言葉に補い、正しくカムイに伝える役割も持つと考えられている

白老では平成元年～6年にかけて、白老流のイオマンテの復活と若い世代への伝承を目的に旧アイヌ民族博物館が大規模なイオマンテを3度実施したほか、平成21年にも旧アイヌ民族博物館が飼育していたクマの死によってイオマンテを執り行っています。

政策推進課 アイヌ政策推進室 学芸員 森洋輔

問い合わせ先: イオル事務所 チキサニ ☎82-6301